

## 「香港中文大学サマースクールプログラム（中国語コース）参加報告書」

京都大学経営管理教育部修士2回生 杉野 聖

## ① 学習成果

中国語のレベルを上げることができました。元々、国際理解への意欲は高いので、特に変化はありませんでした。

## ② 海外での経験

毎週土曜日にプログラム参加者でグループを作り、グループごとでフィールドトリップに行く機会がありました。中文大学の学生がガイドとして1グループに一人ついてくださり、マカオと深圳を案内してくださいました。

マカオではポルトガル領だったころの面影があり、中国とポルトガルの融合した街並みを見ることが出来、非常に興味深かったです。

深圳では、香港とはまた違った大陸の中国を見ることが出来、本場の火鍋もおいしく頂きました。

## ③ プログラム内容

香港中文大学のサマープログラムは中国語（普通語）を三週間の集中講義で学ぶプログラムになっており、普通語のネイティブの先生が教えてくださいました。4つのレベルごとに分かれており、私は一番下のレベルでした。プログラム参加者の60%以上が日本人でした。私たちは漢字から単語や文章の意味は推測できたので、他のヨーロッパから来ているクラスメイトと理解の差があり、授業の進行が遅れることもありましたが、先生が授業を面白く、興味深くしようと努めて下さったおかげで、毎回新しい発見があり、非常に学びがいのある授業でした。オーラルとグラマー&ヴォキャブラリーで授業が分かれていましたが、私のようなビギナーの日本人の場合、グラマー&ヴォキャブラリーは分かるので、上のレベルをとりたく、オーラルは発音等がまだできないので、下のレベルをとりたいたいといった細かい要望はなかなか取り扱ってもらえなかったもので、そこが改善されればより自分のレベルに合った学習ができたと思います。

また、中文大学の歴史学部の学生に日本の歴史（明治維新と吉田松陰）と京都大学についてのプレゼンを行い、向こうの学生から、中文大学についてのプレゼンを行ってもらい、質疑応答をもってお互いのプレゼンの理解を深め、そのあとの夕食会で親睦も深めることが出来ました。歴史学部の学生は学部の二回生だったこともあり、日本の歴史についてそこまで学んでいる訳ではなかったのですが、京都大学についてのプレゼンは非常に好評で、中文大学と京都大学の類似性なども見付き、楽しい時間を過ごすことが出来ました。

## ④ 進路への影響

中国語の大切さと習得の難しさは改めて感じました。しかし、自分の将来のキャリアのためにこれからも学習を続けていこうという強い気持ちも持てました。